

平成 30 年度第 1 回 四條畷市産業振興ビジョン推進協議会（会議録）

開催日時	平成 31 年 3 月 28 日（木） 午前 10 時～11 時 30 分
開催場所	四條畷市役所 東別館 3 階 302 会議室
出席者	平井委員長、谷委員、堀委員、藤本委員、狭山委員、北田委員、 成見委員、上村委員、松川委員 順不同 市民生活部 産業観光課（事務局）
次 第	1 産業振興ビジョンアクションプログラム策定に係る案の検討 について 2 その他について

1 産業振興ビジョンアクションプログラム策定に係る案の検討について （事務局）

平成 30 年 2 月に産業振興ビジョンが改訂され、基本戦略に基づく具体的な施策はアクションプログラムを策定し、そのなかで反映する。また、産業振興ビジョンは今後 10 年間を見通した計画であるのに対して、アクションプログラムは時代や状況に合わせて適宜で加筆修正していくことを説明。

（平井委員長）

中間目標はどの程度を目途にしているのか。

（事務局）

産業振興ビジョンにおいては、5 年目となる平成 34 年を中間目標としているが、ご意見を踏まえアクションプログラムにも記載する。

I 商業施策

（松川委員）

商業の K P I で市内小売業の年間商品販売額が増加している。現状では大型店舗が売上げを伸ばしているものの、商店街では売上げが落ち、また、他市に顧客が流出している。こうした状況で売上げを伸ばすためには、市内人口の増加、来街者の獲得が課題となる。そのためには環境整備等が必要で、例えば駐車場の確保や市外から来場しやすい交通環境整備も検討するべきではないか。

(事務局)

平成29年度に機構改革を実施し、新たに魅力創造室を設置して本市の魅力を情報発信するなどしているが、ご指摘のとおり、まずは本市を訪れていただいたうえで、住んでみたいと思えるような魅力が必要と考える。例えば、交通環境については公共交通会議で検討を重ねており、コミュニティバスが一部地域で実証実験を行う予定にあるなど、利便性を高めつつ街の魅力向上に努めている。

また、駐車場の整備も大切だが、現状は他地域と差別化された魅力の顕在化が進んでいないため、今ある資源を活用して新たな魅力を創出していかなければ、せっかく本市を訪問しても、一度だけになってしまう。

そのため、市内全体が活性化するよう各部署が相互に連携して取組みを進めていかなければならない。

(上村委員)

商工会としては、会員拡大に向けた取組みを行っているが、会員数は年々減少する傾向で、政府が公表しているほど景気の回復が進んでいるようには実感できない。特に工業は、中小零細企業がほとんどを占めており、この傾向は本市だけではなく、近隣自治体においても同様である。

さらに、商工業とも高齢化が進み、事業承継が出来ないところも数多く存在し、廃業に至る事業所があるなど活気が戻らない1つの原因となっている。魅力ある商店に生まれ変わるため、努力をされているところもあるが、一枚岩となって市域全体で商業を盛り上げるための施策があれば、良い方向に向かっていくのではないか。

(谷委員)

田原地域では、用途地域の関係など商業が発展しづらい状況にあり、せっかく四條畷に住んでいても、市外へ外出するが多い。また、市内でお金が回るしくみが出来ていない一方で、隣の生駒市はもの凄く発展している。四條畷でも、それぞれの分野でできることを発揮していければ良いと思う。

(堀委員)

明らかに西部地域を想定している内容だが、四條畷市の産業振興ビジョンは市域全体を考えなければならず、田原地域も含めた市全体を考慮した文面となるよう検討するのはどうか。例えば、田原地域に対しても、商業参入しやすい仕組みづくりを検討する等。

(堀委員)

I-④「誰もが利用しやすい環境整備」について、福祉、主に障がいを持つ人に関する施策が掲載されていないように感じる。今年度、市と一緒にバリアフリーマップを製作したので、商店街でも買い物がしやすいような取組みを加えるべきではないか。

(北田委員)

若年層は車を所有している人も多く遠方での買い物にも不便はないが、高齢者はできるだけ近くで揃えたいと考えている。これまでの取組みで、買い物に配慮が必要な人に向けた支援策として、どのようなことをしてきたのか。

(事務局)

過去の取組みとして、商店街へ依頼して休憩所を設置したこともあるが、行政で宅配サービスや移動式スーパーなどの実施は難しく、これら地域課題にアプローチする事業者に向けた支援を整えていきたい。

II 工業施策

(堀委員)

KPIの基準について、「事業者向けセミナー開催回数」と記載されているが、開催回数が増えることでどのような効果を期待しているのか。

(事務局)

セミナーの開催回数に応じて商工業者の売上げが増えるという意味ではなく、これまで産業振興ビジョンの改訂を進めるなか、工業においては売上だけではなく、人手不足や人材育成なども大きな課題であるという認識を持つに至った。こうしたことから、セミナーの開催により会社の在り方や進むべき道を改めて考える機会となり、人材確保や新商品開発などにおいて新しい発想を取り入れてもらいたいと考えている。

(堀委員)

セミナー参加者数を増やしたいということか。

(事務局)

そのこと以上に、自ら変化することに関心を持つ事業者を増やしたいということである。

(上村委員)

Ⅱ－①「人材の確保と育成」について、用途地域により工場が集積していれば企業同士の結びつきも生まれるが、現状はそれぞれが個々で活動している。東大阪では企業間のつながりが深く、市内企業が何社か集まり1つの製品を作ることにもできるが、四條畷は準工業地域でも周囲に住宅が存在することも多く、事業の拡大を図るために他地域へ移らざるを得ないケースがある。商工会としても、経営相談をはじめとして様々なサポート体制を整えているが、会員間で共有しきれていないこともある。

また、東大阪のように企業間連携は難しいが、東大阪のMOB I Oや近隣自治体の類似施設を活用しながら、本市工業のPRを図っていく必要がある。

(平井委員長)

情報共有は大きな課題であり、商工業の情報も当然であるが、このような会議を行っていることを市民の方々に知っていただくのも重要。

Ⅲ 農業施策

(谷委員)

Ⅲ－①「人材の確保と育成」について、特に生産緑地は地域に点在しており、工業や商業と同様に集積ができていない。現実には周囲に住宅も多く、農業を継続することが難しい状態で、今後もこの状況が続くと予想される。農地を賃貸したいと考えていても、このような理由から借り手が見つからないため、農地集積により農業が継続しやすい環境になればと思う。

(藤本委員)

農業だけで生計を立てることは難しく、ほとんどの人が兼業農家である。また、定年で退職してからは年齢的に手のかかる農産物を生産することが難しく、お米が中心になってしまう。

(谷委員)

Ⅲ－②「農産物のブランド力向上と見える化」について、来街者の方に市内で生産された農産物を店舗で食べて頂けるように生産していきたい。

(藤本委員)

Ⅲ－③「食が育てる地産地消」について、現在は学校給食で農作物を利用して頂いているが、1回で納める数量が多く複数名の農家で集めて運搬する必要があるため、ガソリン代等を考慮すると売上げにはつながらない。

(狭山委員)

Ⅲ－④「次代に向けた農地の保全」について、市街化区域の農地は土地代が高く、また、小さな農地でも所有するだけで税金が生じる一方で利用価値が低く、減少していく傾向にある。

また、田原地域では山間部に広がる農地も多くあり、森林の間伐を行わずに放置すると竹やぶに変わってしまう場合もある。このような農地を元の状態に戻すことは難しく、戻すことができた場合でも農地として利用するには不便があり収入に結びつかないため、結果として遊休農地が増加傾向にある。農業委員会で農地パトロールを実施しているが、その現状を承知しているため遊休農地を抱える農家へ厳しく指摘することができない。

IV 観光施策

(成見委員)

Ⅳ－①「四條畷らしさを活かした誘客施策」について、ハイキングガイドは大人数を対象に実施する場合もあり、トイレの少なさが課題だと感じている。また、状況によっては観光バスで来訪されることもあり、駐車場についても課題であると考えている。

(平井委員長)

四條畷市の観光施策において、ゆずりはは重要なポストを担われているなかでのご意見ですが、来街者用のトイレは以前からの課題でもあり、オリンピックや万博等、外国人観光客が多くなることも予想される。

(事務局)

ご指摘いただいたトイレについては、議会でご意見をいただく機会も多い。公園や山間部のトイレは担当課の検討課題として挙げられているが、様々な条件や課題から実現が難しい状況である。また、大型バスの駐車場についても同様である。

(平井委員長)

観光客と住民との融合については、どの地域でも課題となっている。このことについても考えていかなければいけない。

(成見委員)

Ⅳ－②「近くにある環境を活かした来街人口の増大」について、飯盛城跡が続日本100名城に選定されて以降、飯盛山へ登る人が増えている。なわてロードガイド「ゆずりは」では、市内外の方へハイキングガイドを実施しているが、特に市外から初めて来られるハイキング客の最初のきっかけとなることが多く、来街者の第一印象を左右するのは自分達であるという自覚を

持って活動している。四條畷に来て良かったとだけ思っていたら、連れて行くだけにならないよう、参加者の方とコミュニケーションをとりながらハイキングを行っている。

また、参加者からは土産を購入したりや昼食を食べたりする場所を聞かれることも多く、そのような時に戸惑うこともあるが、商店街の雰囲気が好きになり写真撮影や買い物をされる人も多い。これからも四條畷の魅力を発信していきたい。

(事務局)

皆さまより頂いたご意見を踏まえ、必要に応じてアクションプログラムを編集することとし、併せて、今後についても引き続きご意見等をお願いします。

2 その他について

・特に意見なし

以上